

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報機器の操作Ⅱ
担当教員の実務経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	情報処理演習Ⅰに引き続き、コンピュータについての知識と技能を身につけることを目標とする。特にインターネットを活用し、高度な情報環境を有効に活用できるようにする。 インターネットの活用によって、国内のみではなく、諸外国の福祉の情報も取り入れることが可能になる。また、単なるコンピュータの技術を身につけるだけでなく、ネットワークを通して、グローバルな視野を身につけることも目標としている。
授業の到達目標	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する
準備学習・時間外学習	演習を通して様々な技術や知識を獲得し、HTML言語によるWebページの作成を目指す。
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。
授業上の注意点	

授業計画（内容）	コマ数
HTML の歴史～現状について学ぶ Web サービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。	1
HTML の文法について学ぶ・Web ページを作成するツールの紹介等 Web ページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Web ページを記述する言語であるHTML を編集するためのエディタについても調べて使ってみる。	1
基礎的なHTML の演習 HTML の基本文法を学び、簡単なHTML を記述してみる。	1
画像の挿入、ハイパーリンクを利用したHTML 記述演習 Web ページにさまざまなメディアを挿入する際の記述方法を学ぶ。 また、Web の特徴でもあるハイパーリンクの仕組みを理解し、記述してみる。	1
その他 さまざまなHTML タグを利用した演習 HTML にはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。	1
スタイルシートの基礎・概要について学ぶ Web ページのデザインは主にCSS で行う。CSS とは何かを理解する。	1
スタイルシートの実装について スタイルシートの記述方法を理解し、さまざまなセレクトについて学ぶ。	1
Web のユーザビリティについて 見やすいWeb、使いやすいWeb とはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考えてみる。	1
Web サイトの構築について(概念) Web は1ページで完結することは少ない。具体的なサイトの構成を考え、ページデザイン・リンクの構成を検討する。	1
テーマを決めてHTML、CSS を利用したWeb ページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際にHTML、CSS を利用してサイトを構築する。	1

HTML・CSS 作成演習(1)	1
HTML・CSS 作成演習(2)	1
作成したWeb の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。	1
JavaScript とは、簡単なJavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。	1
Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害児保育	
担当教員の実務経験	障害児保育施設理事長	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。 本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点をおきながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。	
授業の到達目標	保育現場で出会う可能性のある障害についての理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小林保子、立松英子『保育者のための障害児療育－理論と実践をつなぐ－』学術出版会。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
障害の理解（教科書pp.11-22） Key words: ICIDH、ICF、児童の権利に関する条約、障害者基本法、保育所保育指針		1
障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度（教科書pp.23-32） Key words: 手帳制度、発達障害者支援法、障害者総合支援法、小児慢性特定疾患治療研究事業、臓器移植		1
障害のある子どもの発達（教科書pp.33-42） Key words: 発達の偏り、IQ、DQ、発達プロフィール、言語、運動、情緒、社会性、ボトムアップ、トップダウン		1
療育における家庭の子育て支援（教科書pp.43-54） Key words: ライフステージ、障害の受容、Drotar の図、早期発見、早期療育、相談事業、地域支援		1
療育の種類と支援・専門家との連携（教科書pp.55-64） Key words: 統合保育、分離保育、並行通園、交流保育、通園施設、通所施設、病棟保育、		1
地域における専門機関との連携（教科書 pp.65-72） Key words: 発達支援センター、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職、福祉職、Trans disciplinary な支援		1
就学への移行と特別支援教育（教科書 pp.73-89） Key words: 小学校との連携、個別の支援計画、特別支援教育、就学基準、特別支援教育コーディネーター		1
よりよい療育実践のために（教科書 pp.93-107） Key words: 発達の観点、非嫌悪的接近、合併症、発達検査(評価)、療育プログラム、実態評価		1
知的障害児への支援（教科書 pp.109-115） Key words: AIIDD の定義、知的機能、適応行動、認知、視知覚、協調運動、記憶		1
肢体不自由児への支援（教科書 pp.117-132） Key words: 身体障害、脳性まひ、痙直型、アテトーゼ型、失調型、筋ジストロフィー、重症心身障害児、健康特性		1
自閉症を伴う子どもへの支援（教科書pp.133-142） Key words: 自閉症スペクトラム(ASD)、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、こだわり、視覚支援		1

「気になる子ども」への支援 (教科書 pp.143-150) Key words: 落ち着きがない子ども、注意欠陥多動性障害、強度行動障害、虐待との関係	1
教材・教具と発達支援 (教科書 pp.151-159) Key words: 触覚、はめ板、動作性課題と言語性課題、認知発達学習	1
運動遊びと発達支援 (教科書 pp.161-178) Key words: 粗大運動、微細運動、知覚運動、調整運動、身体意識、感覚運動期、前庭覚、固有覚、ムーブメント	1
事例に基づいて	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	75	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	発達心理学Ⅰで基礎的知識を学修するため、ここでは保育実践に活かせる発達理解をすすめる。遊びや生活の活動の具体的な姿に表れる発達の姿を扱い、発達課題に即した教育的環境構成ができるようにする。子どもを総合的に捉え、環境との主体的な相互作用の意義、現代社会における子どもの問題等を具体的に考察する。	
授業の到達目標	発達障害について理解を深め、各機関との連携や支援方法を習得し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
子どもの発達理解の方法 教科書pp.113-122 を通読し、発達検査や知能検査の種類や実施法、行動観察などについて理解する。また子どもの発達理解に関して、それらの技法を利用することの利点や問題点、限界などについても考察する。		1
子どもの精神的健康と障害 教科書pp.123-133 を通読し、各種の発達障害、虐待との関連などについて理解する。		1
園内研修を通した子どもの発達理解 教科書pp.134-142 を通読し、園内研修の様子や、その在り方について理解する。		1
他機関との連携を通した子どもの理解 教科書pp.144-153 を通読し、連携の重要性やその在り方について理解する。		1
親子関係の発達と支援の実際 教科書pp.154-164 を通読し、親子関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。		1
仲間関係の発達と支援の実際 教科書pp.167-176 を通読し、仲間関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。		1
遊びの発達と支援の実際 教科書pp.178-189 を通読し、遊びの種類や発達の様相について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。		1
自己の発達と支援の実際 教科書pp.190-199 を通読し、自己の形成や発達について理解する。		1
認知発達への支援の実際 教科書pp.201-212 を通読し、認知発達に応じた支援の事例を検討する。		1
言語・コミュニケーションへの支援の実際 教科書pp.213-228 を通読し、言語やコミュニケーション行動の発達に応じた支援について理解する。		1
演習課題1 教科書p.164 の親子関係の発達と支援に関する演習1、2、3、および、教科書p.177 の仲間関係の発達と支援に関する演習1、2、3を行い、簡単にまとめる。		1
演習課題2 教科書p.189 の遊びの発達と支援に関する演習1、2、および、教科書p.199 の自己の発達と支援に関する演習1、2を行い、簡単にまとめる。		1

演習課題3 教科書p.212の認知発達への支援に関する演習1、2、および、教科書p.228の言語・コミュニケーションへの支援に関する演習1、2、3を行い、簡単にまとめる。	1
発達障害について 発達障害に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。	1
虐待について 虐待に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	幼児教育方法論	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目では、幼児期における保育の方法、幼児の学びと保育者の指導法、幼児の側に立った指導法、地域人材の活用等について学修する。また実際の保育の場で必要とされる幼児の生活の姿、指導、援助方法、保育記録の意味等について事例を通して学ぶ。	
授業の到達目標	幼児の主体性を育む幼児期の保育方法について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	小田豊、他『保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法』北大路書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育方法の基本、保育方法の原理について(テキスト第1章)(科目終了試験学修のポイント1) 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める。		1
環境を通しての教育とは(テキスト第1章)(科目終了試験学修のポイント1) 幼児期にふさわしい教育をとらえる視点としての環境について、意義、構成法について学ぶ。		1
遊びを通しての教育とは(テキスト第1章)(科目終了試験学修のポイント1) 幼児期にふさわしい教育をとらえる視点としての遊びについて、特性、遊びのなかの学びについて学ぶ。		1
幼児の主体性の育成について(テキスト第2章)(科目終了試験学修のポイント2) 幼児期の特徴としての主体性について考える。		1
保育者の意図とさまざまな役割とは(テキスト第2章)(科目終了試験学修のポイント2) 子どもの主体性をはぐむうえで保育者の意図、計画性、役割について考える。		1
保育における学びをはぐむ遊びとは(テキスト第3章)(科目終了試験学修のポイント3) 保育における遊びと学びとの関係、遊びの規定要因、保育者の援助の方向性とは何かについて考える。		1
学びをはぐむ遊びの内容(テキスト第3章)(科目終了試験学修のポイント3) 遊びの含まれる「感じる・気づく・試す」という視点で遊びをとらえたとき、どのような学びの可能性があるか考える。		1
保育方法としての保育形態とは(テキスト第4章)(科目終了試験学修のポイント4) 一斉保育、自由保育など、保育形態について学ぶ。		1
さまざまな保育形態(テキスト第4章)(科目終了試験学修のポイント4) プロジェクト活動、チーム保育などさまざまな保育形態の実状と意義について考える。		1
保育における評価とは(テキスト第5章)(科目終了試験学修のポイント5) 保育における評価とは何かについて学ぶ。		1
保育における省察と記録、計画と実践(テキスト第5章)(科目終了試験学修のポイント5) 保育における省察と効果的な記録のあり方、保育の評価と計画のかかわりについて学ぶ。		1
幼児期の教育と小学校教育との接続・連携(テキスト第6章)(科目終了試験学修のポイント6) 幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小学校教師との連携について学ぶ。		1
家庭との連携を活かした保育(テキスト第7章)(科目終了試験学修のポイント6) 家庭と園、家庭と保護者など相互に役割を補完しあうトータルな保育環境づくりや援助について考える。		1

地域との連携を活かした保育(テキスト第7章)(科目終了試験学修のポイント 6) 地域のさまざまな資源や教育力を活用する保育のあり方について考える。	1
保育のボーダレス化と多様な保育形態(テキスト第8章)(科目終了試験学修のポイント 4) 統合保育、多文化保育についての意義、方法、配慮事項について幼児を取り巻く社会変化と関連づけて学ぶ。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教育原理	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目は教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、近代学校の成立過程、教師の仕事の役割、現代日本の学校教育制度、授業における基本的な指導原理について学ぶことを目的とする。また、本学修を通して、受講生一人ひとりが、教育(学)及び児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養うことが重要である。	
授業の到達目標	学校教育および生涯教育について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	田嶋一、他『やさしい教育原理』有斐閣アルマ。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
教育とは何か(1) 教科書:1-17 頁 ①人間への問いと教育への問い ②学ぶことと教えること		1
教育とは何か(2) 教科書:17-38 頁 ①発達への助成的介入 ②教育と教化と形成		1
学校とは何か(1) 教科書:39-55 頁 ①学校の成り立ち ②近代学校の性格		1
学校とは何か(2) 教科書:57-77 頁 ③近代以前の日本の学校 ④日本の「近代化」と学校教育		1
学校とは何か(3) 教科書:78-86 頁 ⑤新たな出発、その後の展開		1
こころとからだを育てる(1) 教科書:87-99 頁 ①こころとからだを育てる計画 ②学力		1
こころとからだを育てる(2) 教科書:99-116 頁 ③身体文化と教育 ④道徳性の発達と教育 ⑤教育における言葉と文化		1
よりよく学ばせ、教えるために 教科書:117-132 頁 ①学習することの意味 ②授業を改革するために ③学校教育の可能性		1
教育評価とは何か 教科書:133-149 頁 ①教育評価とは何か ②修了の認定と入学試験		1
授業の可能性・学校の可能性 教科書:151-175 頁 ①授業をつくる一教材の発見 ②授業をつくる一学ばことは変わる ③学校をつくる		1
教師の仕事 教科書:177-202 頁 ①教師とは何か ②教師の力量とは何か ③授業をつくる教師		1
青年期と教育 教科書:203-218 頁 ①青年期の課題と教育 ②青年の自立と社会参加		1

社会教育と生涯学習 教科書:219-232 頁 ①人は学び続ける ②地球市民として生きるために	1
教育への権利と「子どもの権利条約」 教科書:233-248 頁 ①「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ ②「子どもの権利条約」のもつ意義 ③憲法・教育基本法と「子どもの権利条約」	1
よりよい教育を求めて 教科書:249-271 頁 ①子どもの権利の発見 ②子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」 ③社会の変化と教育政策の動向	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会的養護	
担当教員の実務経験	児童養護施設勤務経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、社会的養護及び児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。	
授業の到達目標	社会的養護の制度と特質について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
現代社会の環境や家庭の機能の変容 ＜家族のカパセル化や家族員のコミュニケーションの希薄化、近隣住民との交流の欠如、親戚関係の希薄化が進むなかで、女性の社会進出が促進され、家庭機能の重要項目である児童の養育や高齢者の介護、家事の外部委託化されるなかで、家庭の機能や役割が変化したり、家族員の人間関係がゆらぐ破綻したりする事態を迎えている。＞		1
現代社会の現状と課題 ＜少子高齢化や地域格差、グローバル化等が進展する中で、競争社会、経済格差、学歴格差、ニートの増加、結婚年齢の高齢化や結婚しない若者の増加、自殺者の増加、生活保護家庭の増加、生活環境の変化、労働環境の悪化、地域社会の崩壊等、大人や子どもの生活や未来に多様な影響を与えかねない状況が散見されている。＞		1
現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題 ＜児童の養育機能や教育機能の低下、ひとり親家庭の増加、貧困家庭等の増加、児童の不登校や非行、ひきこもり、児童虐待の増加、DV の増加、離婚の増加(母子家庭・父子家庭の増加)等の問題が生じ、福祉の支援の必要性が高まってきている。＞		1
現代社会における社会的養護に意義 ＜家族関係や親戚関係、近隣住民同士の交流の減少、友人・知人の関係等が希薄化してゆく中で、これらに代わる公的・私的な福祉サービス、あるいは福祉ネットワークの構築が必要となりつつある。加えて、福祉施設における養護だけでなく、家庭養護や家庭的養護の充実や新たな開発の必要性に迫られている。＞		1
社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 ＜社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されている。これらの状況の中で、国家財政の不安定さや経済状況、社会情勢、雇用や就労条件が不安定になることにより、家庭経済や家族員の人間関係はゆらぎ、そのために家庭や子どものニーズは多様化し、且つ増大しやすくなっている。＞		1
社会的養護の制度と実施体系 ＜社会的養護の制度を推進する柱となっているのは児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法等である。これらの法律に規定されている実施体系としては、主に福祉施設や家庭養護、家庭的養護に分けられている。＞		1
児童の権利擁護 ＜児童は生まれながらにして、健全な保護者(親権者)の庇護の下で大人と同様に人間として有する多様な権利を有している。その中で、彼等の権利を擁護するための専門機関(児童相談所や保健所・警察の生活安全課)や専門職(社会福祉士や精神保健福祉士・保育士等)の充実が必要とされている。＞		1
施設養護の理念と施設養護の原理と援助 ＜施設養護は要保護児童や保護者(親)を入所させて養育・支援し、且つ彼等に必要な支援を行い、児童の最善利益や安全安心の保障、ニーズを的確に把握する等の原理を背景とした、養育や教育、治療、家族の再統合等を実現するための取り組み、社会生活に適応するために就労支援やアフターケア等を行っている。＞		1

社会的養護の領域(家庭養護) ＜一般家庭と同等の機能や役割を果たすために、家庭養護として要保護児童を受け入れ、家庭の代替としての里親やファミリーホーム等の機能を活用し、当該児童の心身の成長や感情を豊かにする試み、学習指導、進路指導、相談援助、アフターケア等を実施している。＞	1
社会的養護の領域(施設養護) ＜施設養護とは24時間365日養護を実施する入所施設(生活施設)や一般家庭をイメージしたグループホーム、自宅から通いデイケアを施す通所施設等がある。その中で、近年は施設規模の縮小化や通所施設の開設に力が注がれている。＞	1
施設養護の実態 ＜施設養護は、施設形態の小規模化を促進し、可能な限り家庭の代替機能を果たすことを目的とした活動を推進している。また、それぞれの利用者のニーズに対応する施設やサービス、専門性の高いスタッフ、設備、建物が整えられるように努めている。加えて、近年は地域住民の相談援助や退所者のアフターケアの機能も拡充している。＞	1
社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術① ＜社会的養護を実践するスタッフは、豊かな人間性や多様な利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得が期待されているが、同時に、社会常識やエチケット、マナー及び隣接分野に関する知識や技術に関しても関心を持つ必要がある。＞	1
社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術② ＜社会的養護の実践者は、利用者に対して日常的に行うケアワークや保護者や家族も含めて行うソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク等を用いて支援する。＞	1
施設運営管理及び経営 ＜施設は利用者に必要な福祉サービスを組織体として適切、且つ効果的、あるいは健全に提供するための適切な運営管理が必要不可欠であるとともに、リスク管理や福祉サービスの向上を目指した内容や質の管理等が求められている。＞	1
理想とする社会的養護と支援の内容や質 ＜近年、ノーマライゼーション理念の浸透が図られる中で、施設機能のネットワーク化が促進されるとともに、施設環境や設備、雰囲気、人間関係、近隣住民との交流、社会への参加、利用者の多様な進路の選択と支援、アフターケア等に力が注がれている。＞	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	音楽基礎Ⅱ		
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師		
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年		
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位		
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []		
授業の概要	1. 「音楽基礎Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い（ピアノ伴奏をしながら歌う）等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。スクーリング修了後、実技試験を行う。 2. スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」、「ピアノ弾き歌い実技試験」について ① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、その中から2曲の選び、指定された1曲を演奏する。 ●A群(ピアノ初心者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・55番 八長調 4/4拍子 ・59番 八長調 3/8拍子 ・66番 八長調 6/8拍子 ・76番 ト長調 4/4拍子 ・85番 ト長調 6/8拍子 ●B群(ピアノ経験者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・80番 二長調 3/4拍子 ・88番 ト長調 4/4拍子 ・93番 イ短調 6/8拍子 ・96番 ヘ長調 2/4拍子 ・100番 ヘ長調 3/8拍子 ・102 番 ヘ長調 4/4 拍子 ・104 番 ヘ長調 3/8 拍子 ② ピアノ弾き歌い実技試験では、以下の9曲を練習し、指定される2曲を演奏する。 ・「ぞうさん」 ・「さんぽ」 ・「もりのくまさん」 ・「いぬのおまわりさん」 ・「アイアイ」 ・「あめふりくまのこ」 ・「おもちゃのチャチャチャ」 ・「ふしぎなポケット」 ・「カレンダーマーチ」		
授業の到達目標	理論・実技の基礎をもとに、弾き歌いの技術を習得し、実技試験合格を目指す。		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する		
準備学習・時間外学習	自主練習		
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。		
授業上の注意点			
授業計画（内容）			
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン①			
『標準バイエルピアノ教則本』については、ピアノ初心者とピアノ経験者で、スクーリング修了試験の時の課題が異なる。どちらの課題が自分が勉強するのに適しているか、実際に各課題番号の曲を弾いてみて、決めること。科目終了試験の弾き歌いに向けて、どのような曲が課題となっているかを、実際に弾いてみて、自分が弾けそうな曲から、弾く練習を始める。 また、慣れるためにも声を出して歌いながらピアノ伴奏をする必要がある。			
1			

[illegible]

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	こどもの音楽Ⅰ
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	1. 音楽基礎Ⅰ、音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。ピアノの弾き歌いだけでなく、リズム遊びや器楽合奏などの経験を積み重ねていきながら、子どもの発達段階における音楽教育の重要性を学んでいく。 スクーリング修了後、実技試験を行う。 2. スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」、「ピアノ弾き歌い実技試験」について ①ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、4曲の中から必修曲(☆の曲)と、そのほかに1曲選び、演奏する。 ●A群(ピアノ初心者) 「標準バイエルピアノ教則本」より ・78番 ト長調 6/8 拍子 ・80番 ニ長調 3/4 拍子 ・88番 ト長調 4/4 拍子 「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第2番「アラベスク」イ短調 2/4 拍子(☆) ●B群(ピアノ経験者) 「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第2番「アラベスク」イ短調 2/4 拍子 ・第3番「牧歌」ト長調 6/8 拍子 ・第15番「バラード」ハ短調 3/8 拍子 ・第25番「貴婦人の乗馬」ハ長調 4/4 拍子(☆) ②ピアノ弾き歌い実技試験では、以下の6曲を練習し、指定される1曲を演奏する。 ・「おべんとう」 ・「おかえりのうた」 ・「こいのぼり」 ・「世界中の子どもたちが」 ・「おわてんぼうのサンタクロース」 ・「とんでいったバナナ」
授業の到達目標	ピアノや弾き歌い、歌の技術力や表現力を総合的に向上させ、実技試験合格を目指す。
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する
準備学習・時間外学習	自主練習
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 <楽譜> 『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。 『ブルグミュラー/25の練習曲』全音楽譜出版社。
授業上の注意点	

授業計画（内容）	コマ数
事前学習：スクーリングでは、修了試験としてバイエルまたはブルグミュラーから課題曲が指定してある。スクーリング受講にあたっては、事前にこれら課題曲を弾けるよう練習をしておくこと。スクーリングでは、演奏のポイントや表現力の向上などを学ぶレッスンを受けることになるので、ある程度弾ける状態にした上で受講しなければ意味がない。A 群かB 群のいずれかを選ぶことになるが、個々の実力に合わせて選択を行うこと。また、弾き歌いの実技試験が実施されるが、こちらも課題曲6 曲を両手で伴奏しつつ元よく歌えるまで練習を積み重ねてから受講すること。	1
導入：ピアノおよび弾き歌いの演奏技術向上がスクーリングに本科目においてもとても重要であるが、スクーリングでは集団で器楽合奏なども行う。保育や教育の場で音楽教育を行う上で必要と思われる知識や技術をできるだけ多く習得するよう努力を重ねること。自宅での個人練習とは異なり、人前でのレッスンや発表は、今後子ども達やその保護者を前にした時に堂々と弾けるようになるために良い経験となる。スクーリングでしか学べない、また体験できないことが多々あるので二日間の講義時間を有意義に過ごせるようスクーリング受講の前に準備しておくことが大切である。	1
スクーリング修了試験課題曲①： A バイエル78 番：左手の8 分音符が乱れないよう正確に弾く練習をすること。力強く弾く小節「f」と書かれたところ」とスラーで滑らかに弾く小節（dolce と書かれたところ）があるので、それらの違いが明確になるよう表現すること。 B ブルグミュラー第2 番「アラベスク」：左手の三和音が重たならないよう気を付けること。左手はスタッカートだが右手はスラーなので、しっかり弾き分けること。中盤は両手とも強く、そして滑らかに。左手のリズムが正確に弾けるようにすること。	1
スクーリング修了試験課題曲②： A バイエル80 番：左手の4 分音符を正確に弾けるように練習すること。また、強・弱・弱と3 拍子の拍となるよう表現すること。右手は、中間部へ音記号があり、左手と交差するので、音の高さに注意すること。装飾音符は明るく、鋭く弾くように。 B ブルグミュラー第3 番牧歌「dolce（甘く柔らかく）cantabile（歌うように）」と冒頭に指示があるので、曲全体を優しく滑らかに奏でられるように練習すること。中間部は多少力強く弾いてよい。最後の2 小節は特に愛らしく。	1
スクーリング修了試験課題曲③： A バイエル88 番：左手を正確に弾けるようにまず練習すること。右手は、付点8 分音符と16 分音符が連続するスキップのリズムが、左手の8 分音符とはタイミングがずれるため、いい加減にならないよう気を付けること。7 小節目からの16分音符による音階は、指定された指使いで何度も反復練習し、滑らかに弾けるようにすること。 B ブルグミュラー第15 番「バード」：♭3 つのハ短調である。♭と4に気を付けて譜読みをすること。冒頭右手の三和音は重たならないように。歯切れ良く弾く箇所とスラーで滑らかに弾く箇所を、明確に表現すること。	1
スクーリング修了試験課題曲④： A ブルグミュラー第2 番「アラベスク」：上記3 のB)を参照のこと。 B ブルグミュラー第25 番「貴婦人の乗馬」：馬の足取りのよう軽やかに弾き始めること。中間分の3 連符は曲の流れが滞ることのないよう何度も反復練習し滑らかに弾けるように。強弱をはっきり明確に表現すること。	1
スクーリング修了試験について：必修曲（☆）と選択曲の2 曲を発表する。スクーリング中のレッスンで指摘されたことを踏まえて、それぞれの曲の良さをしっかり表現できるよう練習すること。人前での発表は緊張し普段の実力を発揮するのが困難だが、それを克服するためには自信が付くまで練習するしかない。また、多少間違えることなどあまり気にすることなく、人前で弾くという経験を大切に考えること。	1
実技試験課題曲①「おべんとう」：楽譜下の※に書かれた注意事項をよく読んで、理解した上で練習すること。まずは、楽譜上に書かれた正確なリズムで弾き歌いができるようにすること。必ず、右手の練習を行う時には、早い段階から歌うことを習慣付けるとよい。	1
実技試験課題曲②「おかえりのうた」：前奏の2 小節は、ペダルを使える者は、踏んだ方がよい。左手の三和音が重たならないよう気を付けること。右手の付点8 分音符と16 分音符が連続するスキップのリズムは、リズムがいい加減にならないよう気を付けて練習すること。	1
実技試験課題曲③「こいのぼり」：〇で囲われている音符がメロディーなので、その下の音符がメロディーよりも大きくなってしまわないように注意すること。左手の動きが難しい箇所があるので、その部分だけを何度も反復練習して手に動きを覚え込ませること。	1
実技試験課題曲④「世界中の子どもたちが」：3 連符とスキップのリズム（付点8 分音符と16 分音符）を明確に弾き分けること。左手の伴奏は重たならないように注意すること。2 カッコ以降、右手に「スタッカートにしない」と注意書きがあるが、自分がその箇所を歌ってみるとよい。歌と同じように右手も表現することを心がければ、自然とスタッカートにはならないことが分かるはずである。	1
実技試験課題曲⑤「あわてん坊のサンタクロース」：冒頭のModerato からBright in 2 への流れが自然になるように注意すること。左手の伴奏にはスタッカートが付いているので、短く歯切れ良く演奏すること。音がつながってだらだらした演奏にならないよう気を付けること。ただし、右手のメロディーは、左手のスタッカートに隠れて短くなってしまわないように注意すること。曲が速いが、最初はゆっぴりしたテンポで正確に弾けるよう練習し、徐々にテンポを上げていくとよい。	1
実技試験課題曲⑥「とんでったバナナ」：前奏の3 - 4 小節目のリズムが非常に難しいので、ゆっぴり正確に練習すること。 またはCoda の前2 小節を前奏としてもよい。反復記号に気を付けること。6 番は最後にCoda に移動する。スラーの付いている音符と付いていない音符を明確に弾き分けること。	1
実技試験について：課題曲6 曲の中から1 曲を指定する。どの曲を指定されても大丈夫なように、バランスよく練習しておくこと。弾き歌いは、幼児の伴奏を想定しているので、多少間違えても絶対に止まってはならない。また、どんなに伴奏が素晴らしくても、歌が歌えていないようでは弾き歌いとは言えない。子ども達が憧れをもって一緒に歌いたいと感じられるような明るく元気な歌声を目指すように。	1

レポート課題について:乳幼児の音楽的発達段階に合っていない曲を歌わせたり楽器を演奏させたりすることは避けなければならない。そのためにも、音楽的発達段階について理解しておくことは重要と言える。様々な文献や資料を探し、熟読した上で、それぞれの観点ごとに分かりやすくまとめること。文献や資料からの引用ばかりではレポートとは言えない。自分の言葉で書くことが大切である。インターネット上に流れている情報は、誰が書いたものか分からない、いい加減な内容のものも多いため注意が必要である。また、それらをコピー・アンド・ペーストするような行為はあってはならない。そうした行いが明白な場合は、レポート課題の評価をFとする。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	こどもの食と栄養	
担当教員の実務経験	管理栄養士経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。 小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期に変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。こども、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」とからだのバランスのとれた子どもになってゆくのである。	
授業の到達目標	栄養素や乳幼児の食の特性について理解し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座 こどもの食と栄養』社会福祉法人全国社会福祉協議会。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
五大自然栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大自然栄養素に分類するため、五大自然栄養素の構造的な違いを説明する。		1
五大自然栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大自然栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。		1
ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。		1
離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。		1
離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。		1
母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。		1
フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、そのような時期の乳児へ与えるかを学修する。		1
母乳の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。		1
母乳の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。		1
偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるかを学修し、疾患との違いを比較する。		1
食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。		1

偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。	1
偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。	
熱量素、構成素、調節素について説明できる。	1
栄養素の役割による分類と五大栄養素との関連性について学修する。	
初乳について説明できる。	1
初乳の特徴を学修する。	
母乳の免疫について説明できる。	1
母乳の免疫の特徴と、どのように乳児へ与えられるかを学修する。さらに免疫のメカニズムを確認する。	
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事前指導Ⅰ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4. 保育技術を習得する。 5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。 6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)	
授業の到達目標	実習に必要な技術を習得し、指導案の作成と模擬保育演習における技術向上を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。		1
保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。		1
施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前を書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。		1
保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。保育所の実習日誌を確認し、事前を書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、12日間の前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。		1
施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。		1
実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)		1

自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)	1
これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。	1
実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事前指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース2年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4. 保育技術を習得する。 5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。 6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)	
授業の到達目標	実習に必要な技術を習得し、指導案の作成と模擬保育演習における技術向上を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。		1
保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。		1
施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。		1
保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。保育所の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、12日間の前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。		1
施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。		1
実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)		1

自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)	1
これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。	1
実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。	1
計	15
授業単位数	1